

.....編集後記.....

◆もうすぐ、梅雨に入ります。集中的な大雨で被害が出なければ良いがと心配しております。以前の地質ニュースの特集号「生活と地質」で地すべりの話も紹介してありますので、心当たりのある方は、くれぐれもお気を付け下さい。

梅雨の時期は鬱陶しくて、好きな人はあまりいないかもしれませんが、空梅雨ならお百姓さんが困るでしょうし、湯水で生活用水が不足すれば大騒ぎでしょう。梅雨も日本にとっては天の恵みです。

◆さて、今月号は、外国の地質の紹介記事で主に構成されています。旅費のかからない外国地質巡検のつもりでお読み下さい。

◆須藤氏の鉱物資源の情報収集・解析活動には、驚くばかりのものがああります。そのうち「東南アジアの鉱物資源」という本を作ってあげなければならないのではないのでしょうか。今回は、磁器で有名な景德鎮の磁器原料の話です。日本では磁器原料が枯渇し、輸入しなければならぬようですが、日本と中国の原材料の比較もされていますので、ご参考して下さい。

◆先日、東京都新島の美しい白砂をもらいました。私の砂のコレクションでも、小笠原のウグイス砂(オリビニ砂)と並んで、我が国の砂の中では美しい砂の双璧でしょう。磯部氏は地中海の島に、新島と同じような砂を調査しに行った時のことを紹介してくれて

います。

◆石原氏は、花崗岩の研究で世界に知られた研究者です。石の上にも三年と言いますが、花崗岩と何十年の研究成果を解説してくれています。磁鉄鉱系、チタン鉄鉱系、帯磁率なる言葉は連載が続きましたので、目慣れしてきたことと思います。今回は、アメリカの事例です。

◆地球の大気や水が、現在と同様であったのかどうかは大変興味ある問題です。渡辺氏は、大気の酸化についての二人の学者の論争を解説しています。この問題に決着をつけることは、いろいろな地球科学情報を解読するためには重要なことのように、ご一読下さい。

論争といえば、日本ではあまり派手なものはないように思います。多分、日本は八百万の神の国で何でも受け入れ、絶対的な対立は避ける民族であることに由来しているのかもしれませんが、でも、少しは論争も欲しいですね。

◆最近、新聞などでも、理科離れへの対策が論じられています。地質調査所でも、各地の博物館でも、いろいろな催しを開催して、理科教育の一端に貢献しようとしています。いろいろな催しをご紹介しますので、是非、お子様連れでご参加下さい。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第526号	1998年	6月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
	1998年6月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。